

## 地球環境時代における教育小委員会 第2回議事録

日時：平成18年 8月 31日(木) 14:00～17:00

5

場所：日本環境協会 第一会議室

出席者：吉野博（東北大学）、三浦秀一（東北芸術工科大学）、菅原正則（宮城教育大学）、  
小澤紀美子（東京学芸大学）、宿谷昌則（武蔵工業大学）、妹尾理子（住宅総合研究財団）、  
10 高橋達（東海大学）、西川竜二（秋田大学）、村田昌樹（OM計画）、  
川畑浩一（環境持続住宅研究会、セイコーステラ）、武藤清（環境持続住宅研究会、星光社）、  
柳沢初実（環境持続住宅研究会）、石井洋平（技報堂出版）、米沢香織（学会事務局）  
：14名

- 15 資料：2 - 0 地球環境時代における教育小委員会 第2回 議事次第  
2 - 1 地球環境時代における教育小委員会 第1回 議事録（案）/菅原委員  
2 - 2 委員会活動の方向性について/菅原委員  
2 - 3 住環境教育に関する情報データベース/石井氏  
2 - 4 付録原稿（1学校で実践できるプログラム）/石井氏  
20 2 - 5 「環境教育用教材 学校のなかの地球」校正原稿/石井氏  
2 - 6 省エネルギー住宅ファクトシート（JCCCAより）/小澤委員

議事：

### 1. 議事録確認

25 前回議事録案（資料2 - 1）は承認された。

### 2. 住環境教育活動について

武藤氏、柳沢氏から標記について説明され、これに対し次のような意見があった。

30 （小澤）まず、イベントと学校教育の違いを意識して欲しい。そして、もし学校教育で扱うべき内容があれば、建築学会として文科省へ要望を出すべきだ。足がかりとしては最近制定された住生活基本法がある。ただ、子供たちの住む家が住環境教育で採り上げているものと異なることが多く、すぐ実生活へ役立てられないので、最終的な教育目標を明確にしないとカリキュラムに位置づけられなくなってしまう。

35 イベントとして楽しく学習して、住環境を考えるきっかけにしてもらうのが目的であれば、そこまで考慮する必要はないが。

（宿谷）説明された活動に一部関わったが、その中で感じたことは、子供たちが大人の意図することに極めて敏感であるということ。そのことよりも、自身で感じたことを表現できるようなプロセスを着実に体験させることがとても重要である。

40

### 3. 刊行について

石井氏から標記（資料2 - 3～2 - 5）について説明された。住宅生産団体連合会から出版費用として90万円の補助を受けた。300部程度を学校教育現場の先生方へ献本したいと考えている。出版時期は10を目処としている。これに対し次のような意見があった。

45

(宿谷) 執筆者の標記で「オーガニックテーブル」となっているところがあるが、知恵を出し、貢献した人の個人名を掲載すべきである。

(吉野(博)) 1章のタイトルほかにおいて「環境教育」とあるのは、「住環境教育」とした方がよいのではないか。

5 (小澤) 情報データベースの掲載内容に偏りや脱落がある。

上記の宿谷委員、吉野(博)主査、小澤委員からの意見は、石井氏が検討することになった。

10 (小澤) 原稿の中に、報告書のような内容のものがいくつかあるが、これだと学校の先生は読まない。学校の先生は、授業作りにすぐ役立つものを求めるので、ヒントが得られやすいようにするとよい。同じことを書くにしても、「これがヒントになる」「ここがポイントである」といったように言い換えるだけでもかなり違う。例えば、p.24「1 はじめに」の7行目「・・・ワークショップが開催されたので、その詳細を報告する。」というよりも、「・・・ワークショップを開催し、その経験から教材のヒントを述べたい。」などとするとよい。p.33の表-1のような、実際に行ったプログラムは大いに役に立つだろう。

上記の小澤委員からの意見は、早い時期に菅原委員が委員会 ML へ送信することになった。

20 (三浦) 電気やエネルギーについての教材が付録に掲載されているのに対して、教育実践事例がないので、原稿を提供できるが、どうか。

三浦委員からは、偶数ページにまとめた原稿を提供してもらうことになった。

委員名簿と執筆者名簿に脱落、不具合があるので、学会事務局が確認・修正することになった。

表紙の写真については、翌日、石井氏と宿谷委員で打ち合わせることになった。

25

#### 4. 省エネルギー住宅ファクトシート

小澤委員から標記(資料2-6)について紹介があった。

#### 5. 今後の委員会活動の方向性について

30 吉野(博)主査からシンポジウムの提案があり、12月14または15日(後日、会場の)の17:00~20:00に建築会館ホールにて開催することになった。環境教育学会との共催の可能性を今後検討する。120周年記念行事とする。参加費は会員無料、会員外1000円。おおよそのプログラムは次の通り。

司会：吉野(博)主査、菅原委員

35

1. 住環境教育への期待 宿谷委員、妹尾委員

2. 住環境教育実践事例 高橋委員、西川委員、田中委員

3. パネルディスカッション 吉野(博)主査(コーディネーター)、小澤委員、宿谷委員、ほか(文科省、理科教育、石川直彦先生など学校教育関係者を予定)

40

また仙台、名古屋でのシンポジウム開催も検討することになった。

次年度以降の委員会活動については、改めて検討することになった。

#### 6. 次回開催日

次回委員会は、10月30日(月)14:00~17:00日本建築学会会議室で行う。

45

以上